



WSL
**OMAEZAKI
PRO 2023**
QS1000 MEN'S / QS1000 WOMEN'S



1_ 優勝した本市在住の佐藤李選手 / 2_ 三輪紘也選手の迫力あるターンは大きなしぶきをあげる / 3_ 波を乗り継ぐ安井拓海選手 / 4_ 試合を見つめる観客 / 5_ 精巧な技を見せつける増田来希選手 / 6_ エアリバースを決める長沢侑磨選手 / 7_ 最高難易度の太技ロデオフリップを仕掛ける伊東李安琉選手 / 8_ 本市在住の池田美来選手は大会最高点を記録 / 9_ 果敢に攻めた松山黎音選手 / 10_ 東京五輪5位タイの大原洋人選手は圧巻の演技を魅せる / 11_ 会場には5日間で6,000人を超える人々が訪れた / 12_ 企画から当日の交通整理に至るまで地元サーフィン愛好家が尽力し大会を運営 / 13_ 試合の行方を見守るジャッジタワー / 14_ 決勝終了後に称え合う佐藤選手と池田選手



OMAEZAKI PRO 2023 と併催

Urban Sports Camp in Omaezaki



プレイキン ダブルダッチ スケートボード



プレイヤー

1_パリ五輪出場を目指す根附海龍選手の圧巻のパフォーマンス / 2_ 幾度も世界一の栄光を手にしたMORTAL COMBATのパフォーマンスに盛り上がりは最高潮 / 3_5_ 特設パークでスケートボードを楽しむ来場者 / 4_ 見事2本のロープを跳び続ける参加者 / 6_MORTAL COMBATと参加者で即興ダンスを披露 / 7_10_ 世界大会三連覇を果たしたREG☆STYLEのパフォーマンスに歓声があがる / 8_ 9月25日、杭州アジア大会パーク男子で銅メダルを獲得した笹岡建介選手。参加者にトリックのコツを教える / 9_MORTAL COMBATに三点倒立などの技を教わる参加者

体験会参加者の声

長嶋 らふさん(中原区)

初めてダブルダッチをやりました。2本の縄の中に入ったり、ジャンプしながら横回転したりするのが難しかったです。

ダブルダッチ

大石 凱剛さん(島田市) 宮崎 壮汰・鈴汰・恒汰さん

パークから技を教えてくださいました。みんなが即興ダンスをしたのが楽しかったです。

プレイキン

今井 賢悟・葵生・央都さん(薄原区)

パークの技は迫力がありました。子どもたちがパークとふれあえる貴重な体験でした。

スケートボード

「都市」を舞台に繰り広げられ、自らが楽しみ、仲間や観る人たちも一体となって楽しむアーバンスポーツにふれる「アーバンスポーツキャンプ」が御前崎が8月26日、マリナーズ御前崎で開催され、市内外から約700人が訪れました。同イベントでは、五輪種目になったスケートボードやプレイキン、ダブルダッチの世界で活躍する一流プレイヤーがパフォーマンスと体験会を実施。圧巻のパフォーマンスに会場は歓声に包まれ、一流プレイヤーとの交流に子どもたちの顔には笑顔がはじけました。

Urban Sports Camp実行委員会
さいま ちか 財満 栄治 実行委員長

子どもたちの心身の成長には、スポーツを通じた成功体験を重ねることが必要だと感じます。今後も五輪種目化で注目を浴びるスケートボードやプレイキンなど「アーバンスポーツ」を広め、活動のきっかけづくりに貢献していきたいですね。



Interview 大会を振り返っていかがでしたか？

Men's Qualifying Series / WQS1,000

いとうりある
Champion ▶ 伊東 李安琉 選手(宮崎県)

御前崎の波質が自分に合っていた

久しぶりに大会で優勝できてうれしいです。御前崎の波は僕のライディングスタイルと相性ぴったり。得意とするエア系の技をたくさん決めることができました。試合中、クラゲに刺されたときに、すぐに薬をくれる地元サーフィン愛好家の優しさにもふれ、5日間御前崎の海を楽しめました。

RANK	NAME	COUNTRY
1	伊東 李安琉	日本
2	大原 洋人	日本
3	新井 洋人	日本
3	トウマ・キャメロン	オーストラリア



Women's Qualifying Series / WQS1,000

さとすも
Champion ▶ 佐藤 李 選手(白羽区)

地元みんなの応援が力になった

地元開催の大会なので絶対に優勝したかったです。地元の声援が励みになり、積極的に攻めることができました。11月にブラジルで開催される「ISA ワールドジュニアサーフィンチャンピオンシップ」にも日本代表として出場するので優勝を目指します。

RANK	NAME	COUNTRY
1	佐藤 李	御前崎市
2	池田 美来	御前崎市
3	鈴木 莉珠	日本
3	芳田 花瑚	日本



本大会を観戦

さわいりょうた
澤入 亮太 さんご家族(女岩区)

プロの技は迫力があってずっと見ていられますね。サーフィンをやっている息子たちも「いつかこんな大きい大会に出たい」と興奮が冷めないようです。また来年も御前崎で開催してほしいです。

WSL御前崎プロ 実行委員会

おのだまさひろ
小野田 政宏 実行委員長(女岩区)

最終日には波も大きくなり、国際大会にふさわしい日でした。昨年に続き御前崎の良さを国内外に伝えられたと感じます。より規模の大きな大会の開催は御前崎の盛り上がりにつながると思うので、目指していきたいですね。

本大会 準優勝

いけだ みらい
池田 美来 選手(中町)

地元開催でより熱が入った大会だったので、優勝できなくてすごく悔しいです。これからも世界各国で試合が続いていきます。どんなコンディションでもベストを尽くせるように頑張ります。

御前崎プロ の詳細



ホームページ



Instagram

2回目のサーフィン国際大会
サーフィンの国際大会「御前崎プロ2023」が、8月24日から28日にかけて御前崎ロングビーチで開催されました。同大会は、世界団体「ワールドサーフリーグ」公認のプロツアー。年齢制限のない男女2部門に国内外から84人の選手がエントリーし、熱戦を繰り広げました。成年女子の部では、市内在住の佐藤李選手と池田美来選手がワンツーフィニッシュ。迫力ある演技に盛り上がる会場は、地元選手2人が勝ち上がるたび、さらに熱を帯びていきました。会場には飲食店や企業によるブースが出店され、来場者は抽選などを楽しみ、地元や企業の魅力にふれていました。また、気さくにサインや記念写真などに応じてくれる選手に、来場者は喜びを隠せない様子でした。本大会成年男子の部で準優勝した大原洋人選手は、「最終日には波が上がっていいコンディションでした。御前崎の大きくても小さくても楽しめる波質が好きですね。5日間楽しくサーフィンができました」と御前崎の海を絶賛しました。